



—東地中海地域ニュース—

イスラエル・レバノン：国境情勢 (17日付イエディオット・アハロノット紙)

17日付イエディオット・アハロノット紙は、イスラエルとレバノンが両国の国境線の画定に向けて共同作業を進めていることについて報じている。

1. 最近、IDF（イスラエル国防軍）、レバノン軍および UNIFIL は、イスラエルとレバノン間の国際国境線の一部 40 キロの経路について合意した。同国境線の合意に向けた作業は、2 年前から秘密裏に行なわれていた。
2. 16 日、ヨナタン・コンリクス・ガリル師団リエゾン・オフィサーは、「2 年前に北部国境で装甲車に対する発砲事件を受けて、国際国境線の画定が必要であると決断した。レバノンは現在でもイスラエルの敵対国であり、全ての国際国境線の経路が合意されることは重要である」と述べた。
3. 作業は極めて困難かつ複雑である。まず、UNIFIL が比較的意見の対立が少ないと想定される区域の経路を決定し、その後、同経路を当事者に提示する。合意された段階で現場において同経路を示す作業を行なう。90 キロの経路がまだ合意されていない。